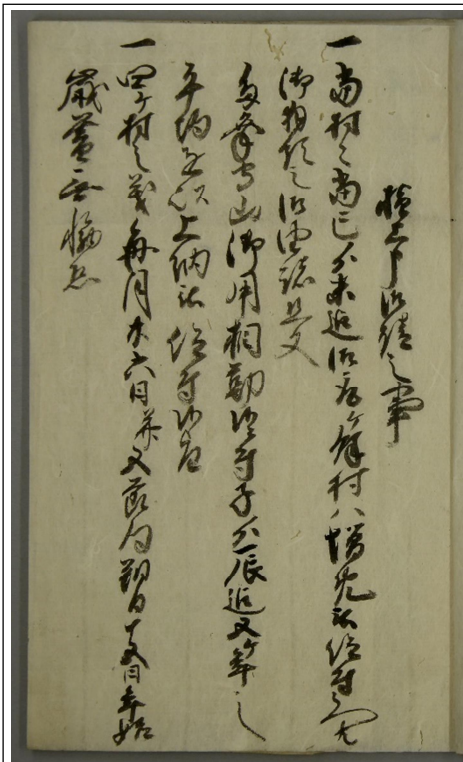


多峯主山ハイキングコースの起源を示す古文書

飯能市立博物館 学芸職員 尾崎 泰弘



双木利夫家No.1486

「岡村御役所に而被仰渡候御請写シ」

多峯主山といえば、眺望に優れ、飯能の市街地から 30 分ほどで登ることができるため、手軽なハイキングコースとして人気を集めています。この他にも多峯主山へと向かうルートはいくつかありますが、これらの道が整うのは、少なくとも今から 300 年前、多峯主山頂上のすぐ下のところにある、現在の飯能の市街地部分の領主であった黒田直邦の墓ができてからと考えられます。

黒田直邦は、当時上州沼田藩の藩主で享保 20(1735)年 3 月 26 日に病で亡くなりました。それから 2 年後の元文 2(1737)年閏 11 月、飯能・久下分・真能寺・中山の 4 ケ村の代表として飯能村名主又右衛門などは、沼田藩の出先機関があった榛沢郡岡村(現在の深谷市)の役所に呼び出されます。そこでこの 4 ケ村は、同領他村が納めなければならない年貢の一部を免除される代わりに、多峯主山の「御用」を命じられます。それは元々黒田直邦が宝永 4(1707)年に 5,000 石加増された際、先祖(中山家範)の旧領であったことから願い出て拝領となった由緒があるからです。

さて多峯主山の「御用」とは、毎月、直邦の月命日である 26 日と朔日(1 日)・15 日及び五節句(1 月 7 日、3 月 3 日、5 月 5 日、7 月 7 日、9 月 9 日)、年始・歳暮に多峯主山の掃除を行うことでした(双

木利夫家No.1486「岡村御役所にて仰せ渡され候御請写シ」)。つまり最低でもひと月に 3 回、年間でみれば 45 日ほどにもなります。そしてそれは、飯能村が 219 間(約 398m)、久下分村が 160 間(約 290m)、真能寺村が 111 間(約 201m)、中山村が 190 間(約 345m)と決められ、その範囲は「定杭」によって区切られていました(双木利夫家No.1041「ひかえ」)。

「御廟」と呼ばれた黒田直邦の墓への参道には表道と裏道があり、現在のメインルートである天覧山の西谷ツから見返り坂を通るコースは実は裏道で、表道は本郷から登るルートでした。4 ケ村が普段からきれいにしておくよう命じられた参道の範囲はわかりませんが、現在の多峯主山のハイキング道は、かつて黒田直邦の墓へ代々の藩主が参詣するための道として、現在の市街地の人々によって管理され、守られていたものだったのです。



明治 2 年 5 月当時の多峯主山黒田直邦墓付近の様子
(絵図No.20「黒田家廟所絵図」)

【お知らせ】

自然写真展「天覧山の花々とその実り」 6 月 29 日(日)まで